

中国の少数民族教育における  
ウイグル民族のアイデンティティ

課題番号 12610313

平成12年度～平成14年度科学研究費補助金(基盤研究C2)

研究成果報告書

平成15年6月

研究代表者 藤山正二郎  
(福岡県立大学人間社会学部教授)

## はじめに

本書は2000年から2002年まで、主に中国・新疆ウイグル自治区のホータンで行った文化人類学的調査の報告である。3カ年に渡って、現地調査はそれぞれ夏の期間におこなった。

調査課題は少数民族教育であるが、教育を学校制度だけでなく、マハッラといわれる地域共同体や家族のなかで、どのようにウイグル文化が伝達されているか（それはいかに育てられているかということでもある）も視野に入れながら調査した。

調査地は主にホータン郊外の農村である。ほとんどがウイグル人であるが、政策的に漢人だけの村が作られている。甘肅省などから来ていた。今は故郷に帰る人が多く、人口も少なくなっている。

教育では小学校で10%、中学校では20%の欠席率がある。まだ、親は子どもを農作業などの労働力として見ている。小学校が3つ新設され、子どもの増加に対応している。卒業生の大半は農業を継ぐが、利益がないこともあり他の職業につく人が増えている。

漢語教育は無駄であるという声もあり、実際にほとんど効果が上がってない。ホータンから出ない限り、漢語は使う機会がないし、必要もないからである。漢語教師もほとんどウイグル人で漢語の能力も低い。大学進学するウイグル人は入学してから漢語の再教育を受けている。小学校3年からの漢語教育は、語学教育ではなく、国家統一の民族教育なのである。

家族はほとんどが夫婦家族であり、人口政策による締め付けにもかかわらず、農村部では子どもは多い。子どもは長男から結婚すると独立して、末子が残って親の面倒を見るという末子相続が多い。祖父母なども同居するよりは、近くに住む形をとる。同じマハッラに親戚（イトコまで）が多い。結婚年齢はかなり早い（都市部ではそうでもない）。イスラム（女性は9歳、男性は12歳で結婚が許される）の影響もある。以前は寿命が短かった、戦争が多かったことなども早婚の理由になっている。早く孫をほしいということで結婚を急がせることもあった。親戚の紹介などで親が結婚の相手も決めることが多い。結婚費用はすべて親が出すからである。早婚であり、親が決め

る結婚であるためか、離婚が多い。だが離婚はそれほど悪いことではない。改革開放後、結婚式は派手になっている。1000人の招待客を集め、祝い金も値上がりしている。血縁地縁、同じ会社などつながりが大切にされ、招き招かれで、出費がかさむと嘆く声もある。

村での大きな問題は宗教問題と教育問題である。イスラム原理主義的なトラブルが民族対立と関連して発生する。当局としてはイスラムを宗教ではなく、習慣としてのイスラム信仰にとどめたいと考えている。ホータンでもワハブ派といわれる改革派が増えている。イスラムの20～30%いると推測され、農民には少なく、知識人や商人に多い。メッカ巡礼が増え、サウジアラビアの影響といわれる。彼らは葬式、結婚式を簡略化し、コーランとナマズが重要だと考える。

この調査が可能になったのは多くの人の援助によるものである。特に現地のホータン、ウルムチ、北京などでお世話になった人は数知れない。この場を借りて感謝を申し上げたい。

#### 研究組織

研究代表者 藤山正二郎 (福岡県立大学 人間社会学部 教授)

交付決定額 (配分額) (金額単位：千円)

平成12年度	900
平成13年度	700
平成14年度	600
総計	2,200

#### 研究発表

##### (1)論文

1. 藤山正二郎、ジェンダー・イスラム・社会主義—ウイグル社会における女性の社会的地位—、福岡県立大学紀要、10巻2号、2002年

以下の本文について説明しておきたい。これは調査報告書であり、聞き書きの通りに、テープやビデオを参考にしながら、文章化した。論文と違って読みやすい文章になっていないことをお断りしなければならない。括弧の部分はこちらで注釈したものである。

また、理解のために、ホータンの概略的な歴史年表を作成した。新疆の地図は昭文社、中国地図(1995年)を、ホータン(和田)付近の地図は新疆美術摄影出版社、新疆ウイグル自治区、分県地図帳(1998年)を使用した。

## 2000年の調査日程

- 9. 21、福岡発、上海経由で北京着
- 9. 22、北京発、ウルムチ着
- 9. 23、新疆師範大学訪問
- 9. 24、ウルムチ市内で資料収集
- 9. 25、新疆大学訪問
- 9. 26、ウルムチ発、ホータン着、ユルンカシュへ
- 9. 27、ブザク郷、コクマルム
- 9. 28、トサラ郷、ブザク郷、敬老院
- 9. 29、ブザク郷
- 9. 30、ホータン市内で結婚式を参与観察
- 10. 1、ざくろの産地であるピアルマ郷へ
- 10. 2、ウイグル医学者を訪問
- 10. 3、ブザク、カラカシュ
- 10. 4、カラカシュ、ホータンに戻り、漢語の先生に話を聞く
- 10. 5、ホータン市内とユルンカシュの上流の水門まで行く
- 10. 6、マリカトワ
- 10. 7、ホータン発、ウルムチ着
- 10. 8、新疆大学、民俗学博物館、夜には雨が雪に変わる
- 10. 9、ウルムチ発、北京着、中央民族大学訪問
- 10. 10、北京市内の牛街イスラム寺院、ウイグルと違い中国風の寺、内部は体を洗い清める設備など整っている、地方から来たイスラムも

利用している

10. 11、北京発、福岡着

## 2001年調査日程

8. 27、福岡発、上海経由で北京到着

8. 28、中央民族大学訪問、午後、北京発、ウルムチ着

8. 29、新疆社会科学院訪問

8. 30、ウルムチ市内で資料収集

8. 31、ウルムチ発、アクス経由でホータン着、大雨だった

9. 1、バフチ鎮、ブザク郷

9. 2、ホータン市内の日曜大バザール

9. 3、朝早くからラウラ郷へ

9. 4、ハネレック郷、ブザク郷

9. 5、ロブ

9. 6、カラカシュ

9. 7、ホータン発、ウルムチ着

9. 8、ウルムチ発、北京着

9. 9、北京発、上海経由で福岡着

## 2002年調査日程

8. 27、福岡発、北京着

8. 28、中央民族大学、北京発、ウルムチ着、飛行機はソ連製からボーイングに新しくなり、ウルムチ空港も新しくなった。

8. 29～9. 2

ホータン空港が工事中で閉鎖されているため、今回はウルムチ市内でホータンなど南新疆出身者を中心に話を聞いた。

9. 3、ウルムチ発、北京着

9. 4、北京発、福岡着